港区探訪

バックナンバー

第５回

いつの時代も、流行の最先端は港区から

**六本木ヒルズやレインボーブリッジが象徴するように、港区には「流行の発信地」のイメージがあります。
それは現代だけでなく、江戸から明治・大正・昭和も同じこと。
港区が流行の最先端だった産業や文化を紹介するシリーズです。**

買い物かごの大革命！
青山に日本初のスーパーマーケット誕生

日常生活に欠かせないパートナーともいうべきスーパーマーケット。
『ショッピングカートに欲しい商品を入れて、レジで精算する』今では当たり前の光景ですが、
スーパーマーケットのスタイルが 確立されたのは、なんと、56年前のこと。
日本のスーパーマーケット第1号店が、青山にある紀ノ国屋なのです。
「港区探訪 いつの時代も、流行の最先端は港区から」、最終回の今月は、便利で豊かな生活の象徴ともいえるスーパーマーケットの元祖「紀ノ国屋」から日本の買い物スタイルの変化を探ります。

ガラスの窓にガラスのドア。店内は見えるが、当時の日本のオープンな商店とは勝手が違ったよう。茶色のクラフトバッグに緑色の「KINOKUNIYA」の文字がまさに流行の最先端！

まるで欧米のスーパーマーケットのようなおしゃれな内装。生鮮食品以外の缶詰などにはすべて値段のラベルが貼られていました。

2008年11月5日にリニューアルオープンした現在の紀ノ国屋インターナショナル。来年は創業100 年を迎えます。品質にこだわって作られた約300品目のプライベートブランドをはじめ、食生活に関心の高い皆さんに安心・安全な食品を提供する「食の専門店」です。

買い物の概念を変えたスーパーマーケット

1910年（明治43年）に果実専門店として創業した紀ノ国屋が日本初のスーパーマーケットを開業したのは1953年（昭和28年）のこと。1953年といえば、NHKによって日本で初めてテレビ放送が開始された年。
紀ノ国屋の創業者の子息である増井徳男氏は、米軍基地にあるスーパーマーケットの、野菜や果物、缶詰などの商品が陳列されている圧倒的な様子に感動し、日本にぜひスーパーマーケットを作りたいと考えました。
当時の青山は宮家や元華族などの豪邸が建ち並び、進駐軍の家族も暮らすいわゆる高級住宅街。増井氏は、宮内省（当時）御用達だった果物商からスーパーマーケットに業態を変え、創業の地、青山に新しい紀ノ国屋をオープンさせました。
外国人は「やっと日本にもスーパーマーケットができた」と大歓迎でしたが、日本人の反応はイマイチ。当時の一般的な商店はドアがなく出入り自由だったのですが、紀ノ国屋には「ドアがあって入りづらい」のに加え、あまりにも見慣れない欧米的な外観に「ドルしか使えないのでは？」との噂が出るほどでした。
しかし、ドアをつけたのはゴミが店内に入らないよう衛生面・安全面のためであることが理解され、徐々に日本人にも受け入れられるようになりました。

記憶力と判断力と接客技術が要求されるチェッカーはまさにプロフェッショナルな仕事。米軍から譲り受けたショッピングカートはかごが 2 段あるものでした。

なにより画期的だったのは自分で品物を選び、ショッピングカートに入れていくセルフサービス方式とレジ精算。
当時の買い物は、野菜は八百屋、魚は魚屋など各小売店に出向いて購入していました。特に食品は、店主と会話をしながら品物を選び、溜め銭と呼ばれるザルにお金を入れて代金のやり取りを行う対面販売が主流でした。
紀ノ国屋は野菜、果物、肉、魚、缶詰などをすべて一フロアに陳列し、一人ひとりと対面しない代わりに値段や産地などを記入したポップを作り、商品を選ぶ手がかりにしました。そしてチェッカーのいるレジで精算。対面式ではないスーパーで最後に顔を合わせるチェッカーには、サービスはもちろん、レジの正確さ・スピード感をしっかりと教育されたスペシャリストが配置されました。
そして、忘れてはならないのが、ショッピングカート。当初はアメリカからの輸入が認められておらず、部品などもないため米軍基地にあるスーパーマーケットで使わなくなった中古のショッピングカートを譲り受けていました。

紀ノ国屋は欧米諸国の食生活を日常に取り入れられるようにさまざまなフェアを開催したり、インストア・ベーカリーを開設したりと、新しい食文化を提案してきました。こうして試行錯誤しながら、紀ノ国屋は「食の専門店」として青山だけでなく東京中で愛される店になっていったのです。

エコロジーの精神と食の安全をモットーに

紀ノ国屋といえば有名なのがロゴの入ったエコバッグ。1995年（平成7年）に東京都推進のマイバッグキャンペーンに紀ノ国屋が賛同し、導入したのが始まりです。
当初、スタンプを貯めて交換するバッグだったのですが、大好評だったため販売することになったそう。他にもクラフトバッグやリサイクルトレイを使用するなど、開業当初から変わらず環境問題に向き合い、安心・安全な食品を提供し続けている紀ノ国屋。
ここから、食の現在・過去・未来を考えてみてはいかがでしょうか。

丈夫なエコバッグの先駆け的存在。日本製で、壊れたら修理もしてくれます。クラフトバッグだけでなくリサイクルトレイを使用するなど、ゴミを出さない工夫が随所になされています。

紀ノ国屋をスーパーマーケットとして スタートさせた増井徳男氏

1915年生まれ。戦後、米軍基地のスーパーマーケットを訪れた増井氏は、その様子に大変感銘を受け、セルフサービス方式の紀ノ国屋をオープンさせました。日本初のインストア・ベーカリーの開設、空輸したナチュラルチーズの販売など豊富なアイデアを打ち出し、紀ノ国屋ブランドの価値を高めていきます。2001年になくなった後も増井氏の意志は受け継がれ、「食の専門店」として高品質と安全、衛生が最優先されています。
写真のレジスターは創業当時のもので、車一台が買えるほどの値段だったそう！

● 協力：
紀ノ国屋インターナショナル　TEL:03-3409-1231　http://www.e-kinokuniya.com
港区役所産業・地域振興支援部産業振興課　TEL:03-3578-2111（代）

▲このページのトップへ

｜個人情報保護について [PDF]｜

Kissポート財団
(公益財団法人 港区スポーツふれあい文化健康財団)
港区赤坂4-18-13赤坂コミュニティーぷらざ
電話：03-5770-6837/Fax：03-5770-6884
お問い合わせ：fureai-info@kissport.or.jp

Kissポート財団について

ISO 9001
ISO 14001
JQA-QMA12663
JQA-EM4580
10861140(03)

このホームページはKissポート財団の公式ホームページです。このホームページのすべての権利は当財団に帰属します。
当財団の許可なく複製、転載は出来ません。